
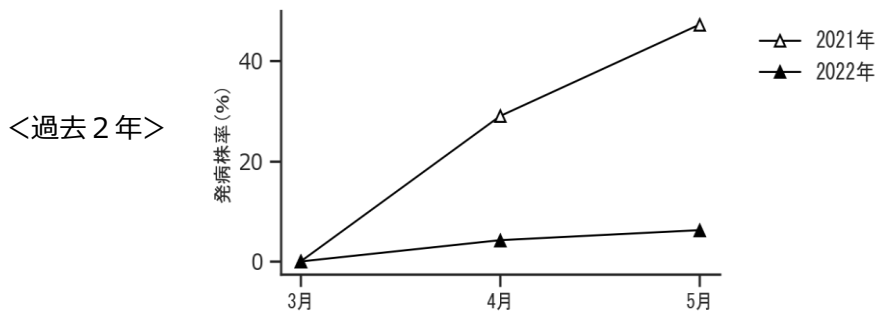
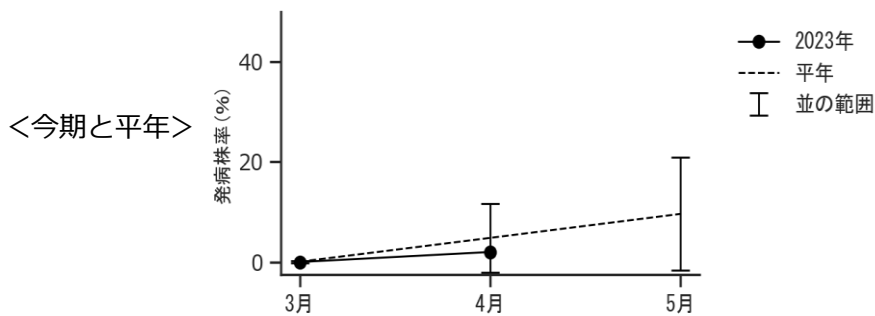


作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	① 葉いもち病		
調査結果	4月の発生量（平年比）	並	
予報	4月からの増減傾向	↗	
	5月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


発病株率の推移



- ・ 発病度0.5（平年2.5）
- ・ 発生ほ場率25.0%（平年：32.5%）

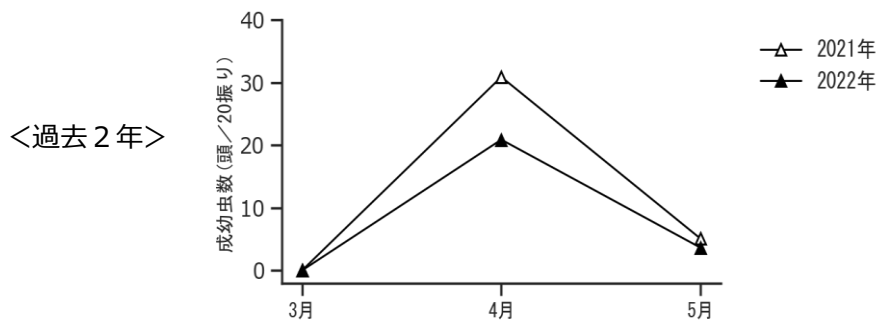
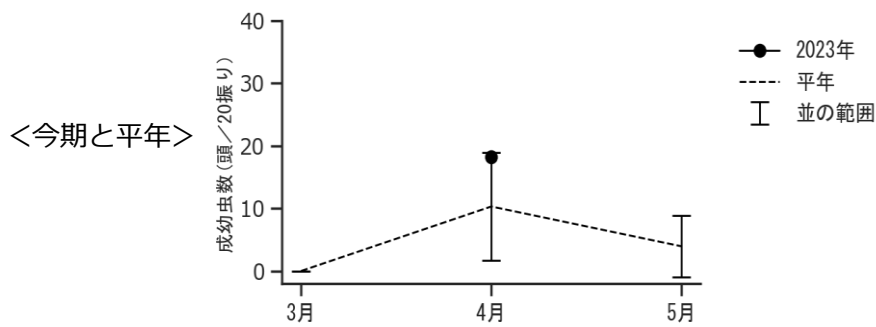
防除のポイント

- ・ 窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。
- ・ 穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・ 発生が多い地域では、共同防除を行う。
- ・ 収穫後の被害わらは次作の伝染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・ 汚染もみは次作の伝染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	② セジロウンカ		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率93.8%（平年：69.1%）

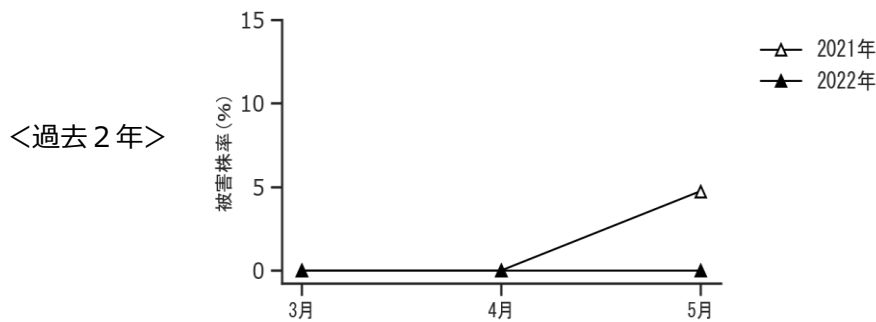
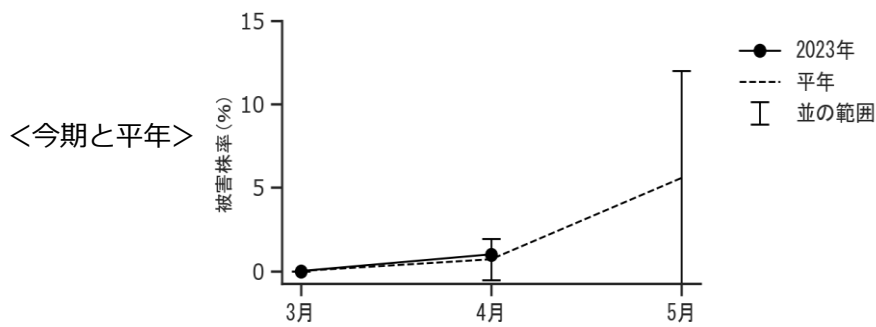
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	③ コブノメイガ		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


被害株率の推移



・発生ほ場率6.2%（平年：11.5%）

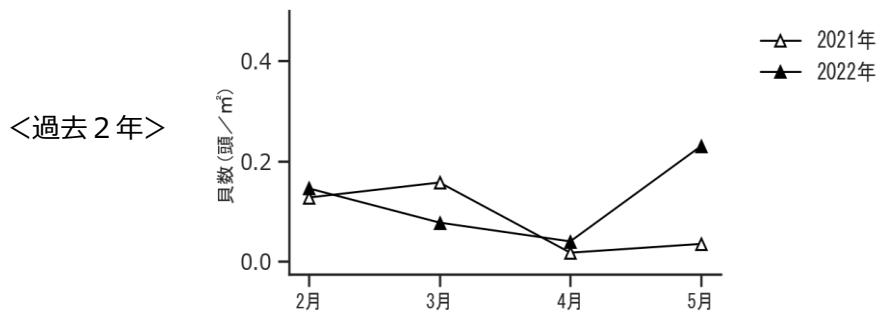
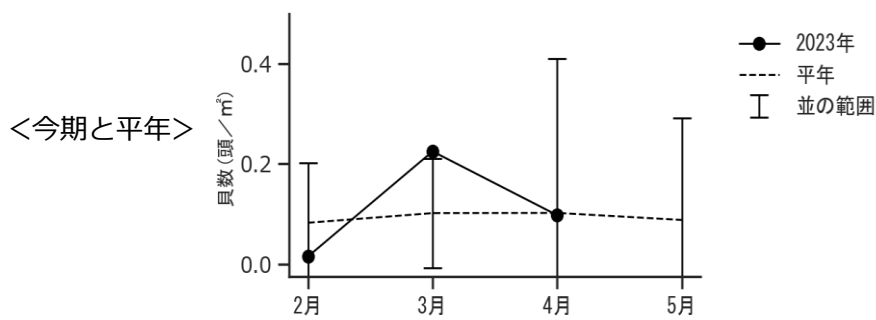
防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う。
- ・老齢幼虫は防除効果が劣るため、粒剤では成虫発生最盛期、粉剤及び液剤ではその約1週間後に薬剤防除を行う。

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	④ スクミリンゴガイ		
調査結果	4月の発生量（平年比）	並	
予報	4月からの増減傾向	→	
	5月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果


貝数の推移



・発生ほ場率56.2%（平年：19.4%）

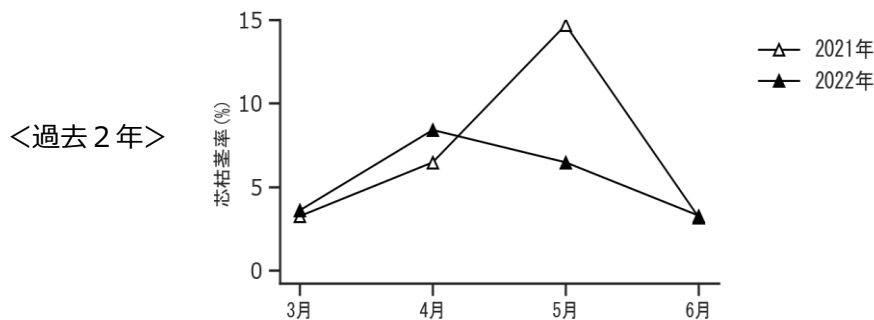
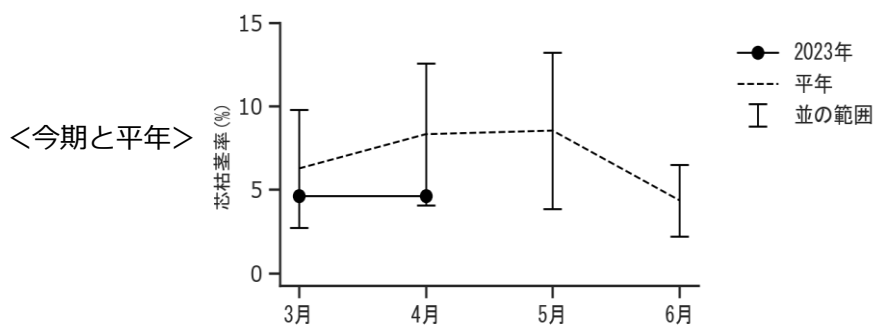
防除のポイント

- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。

作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報	4 月からの増減傾向	→		
		5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


芯枯茎率の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 95.0%)

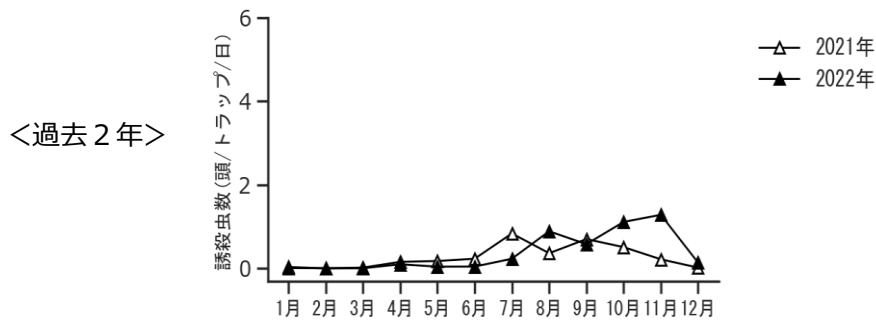
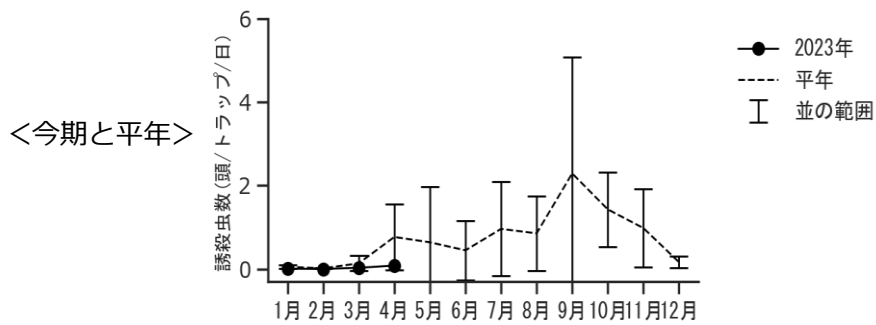
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、植付けおよび株出し管理時から生育初期にかけての防除を徹底する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率100% (平年 : 87.8%)

防除のポイント

- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・ 開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

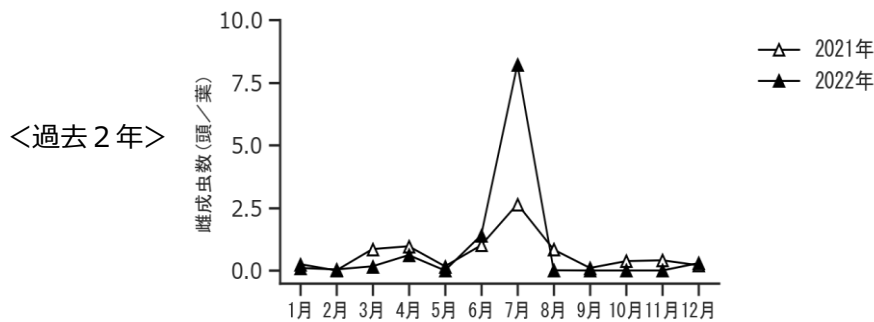
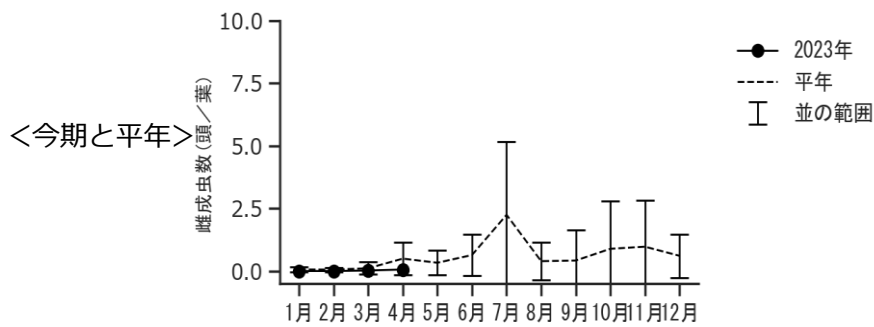
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	



シユレイツメハダニ

調査結果

雌成虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 32.0%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

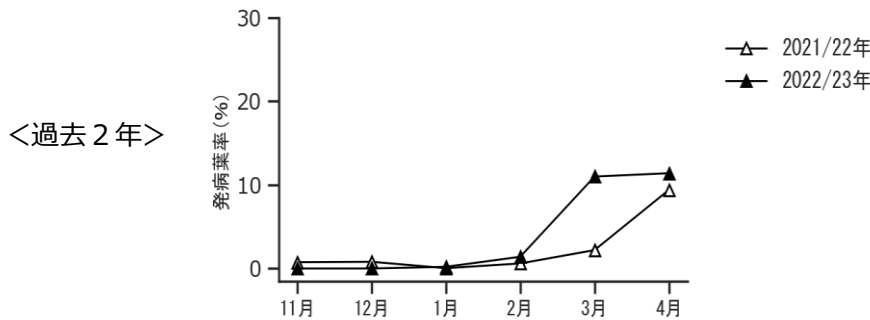
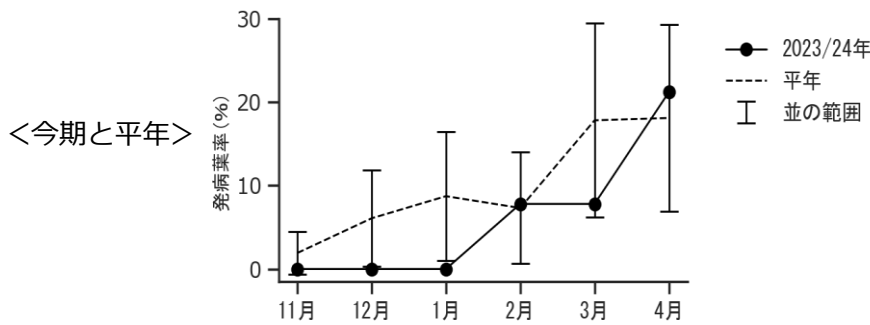


マンゴーツメハダニ

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	4 月からの増減傾向	—		
	5 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 68.4%)

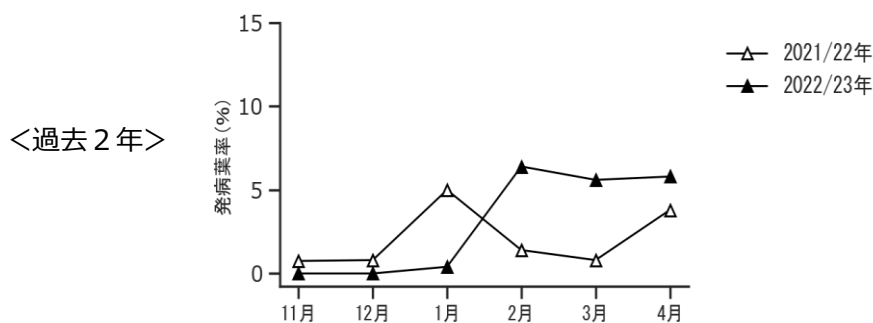
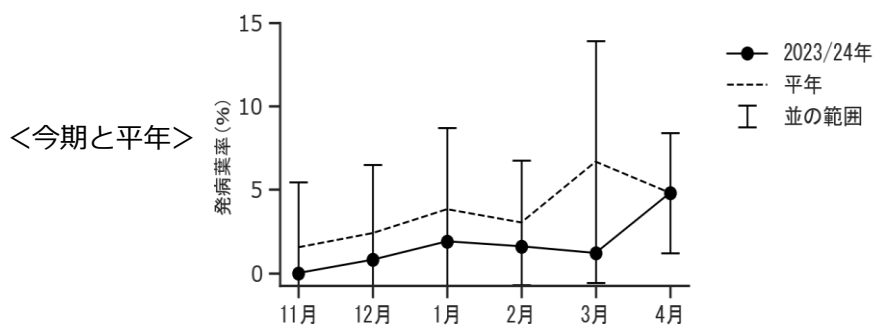
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	斑点病			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報	4 月からの増減傾向	—		
	5 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 63.9%)

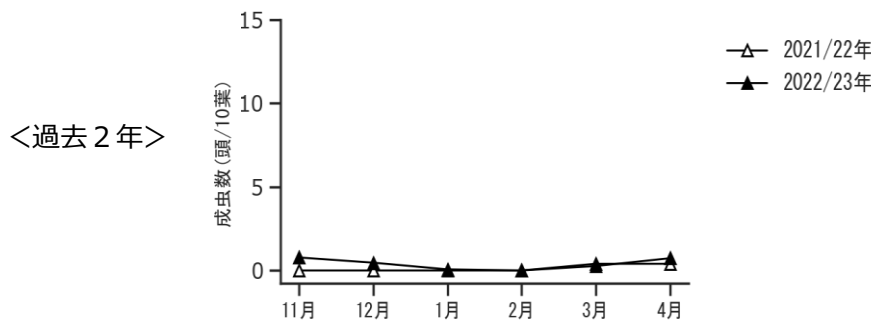
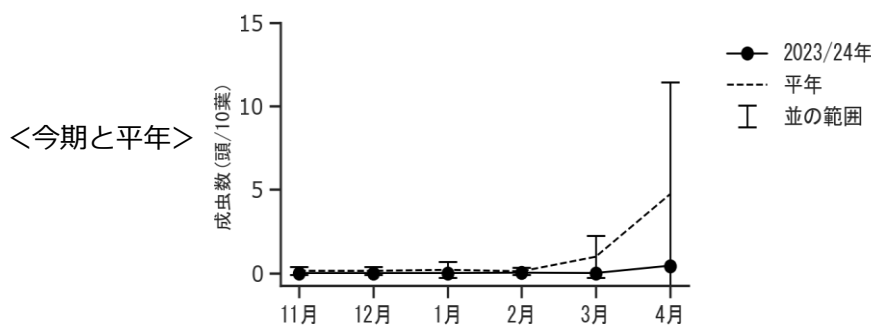
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報	4 月からの増減傾向	—		
	5 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 65.8%)

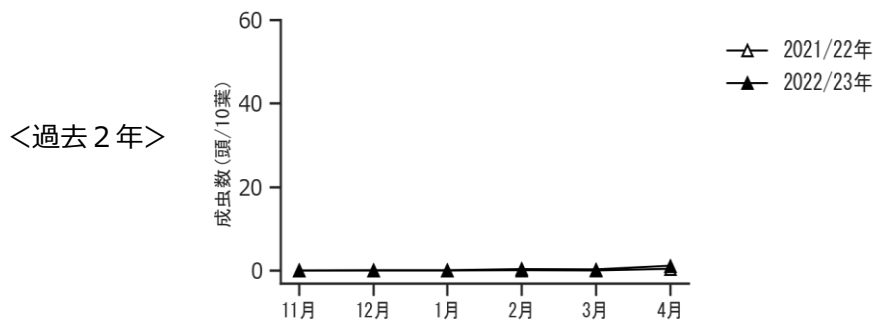
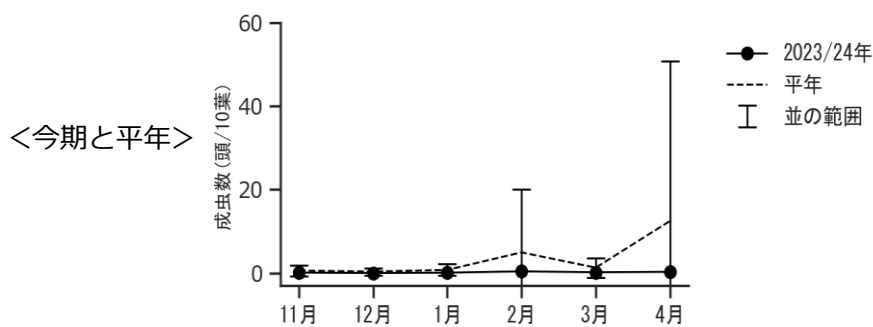
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率60.0% (平年 : 36.8%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

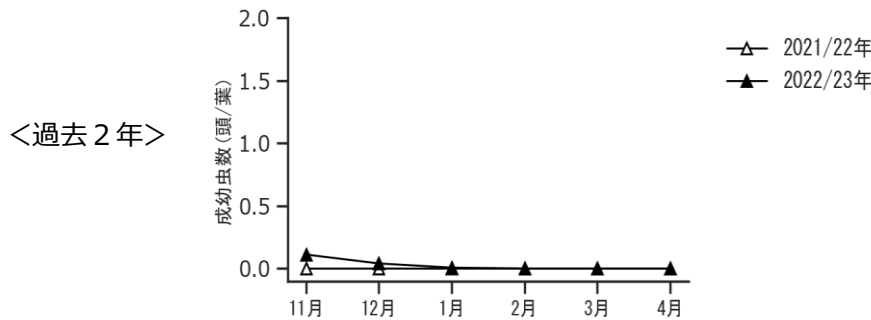
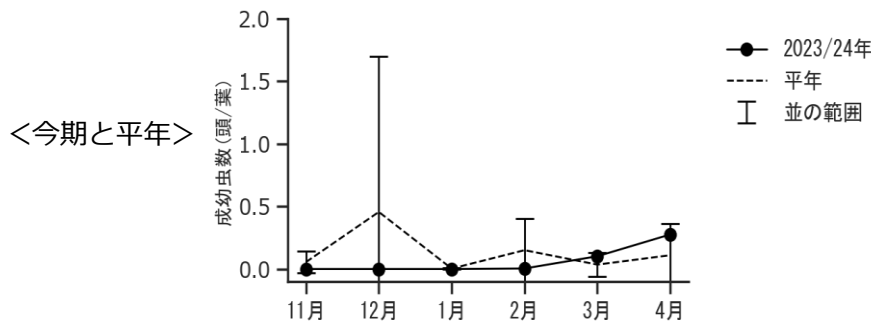


幼虫

作物	ニガウリ(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


成幼虫数の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 15.8%)

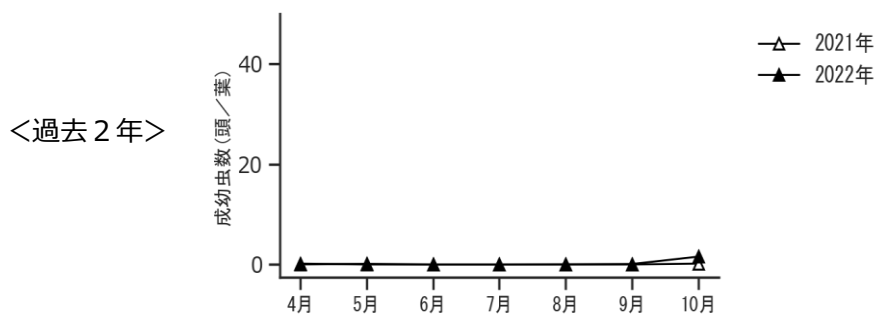
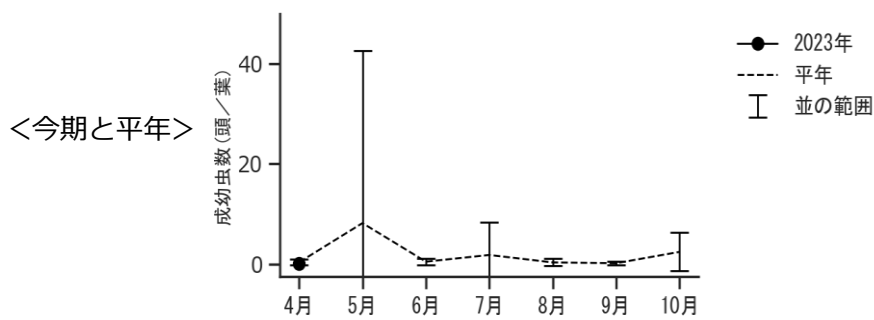
防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① アブラムシ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率40.0% (平年 : 54.9%)

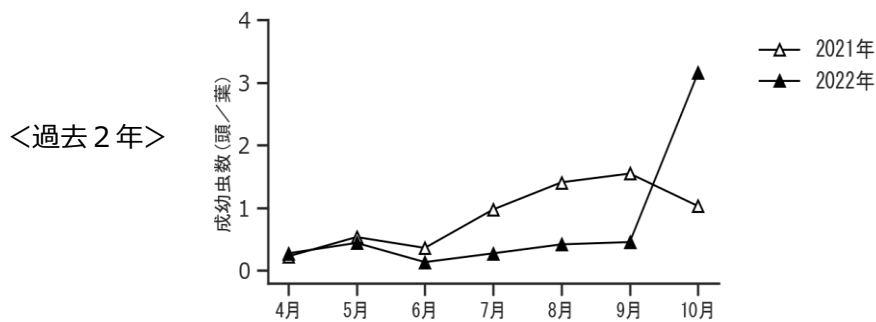
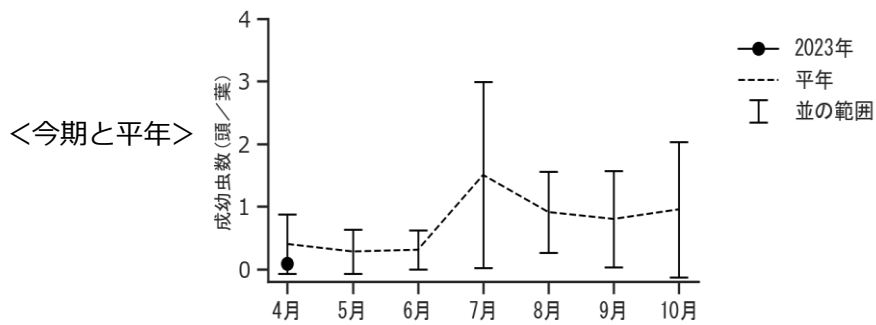
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ			 成虫
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報	4 月からの増減傾向	→		
	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成幼虫数の推移

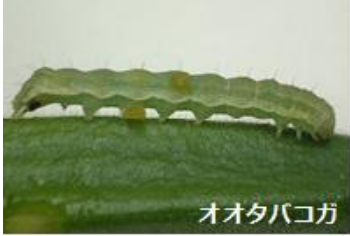


・発生ほ場率60.0% (平年 : 72.5%)

防除のポイント

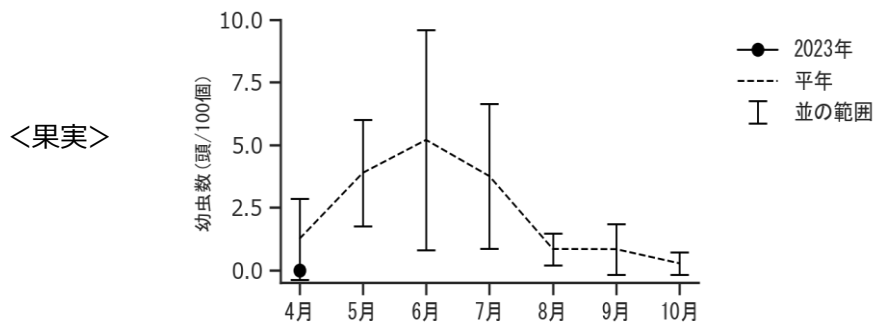
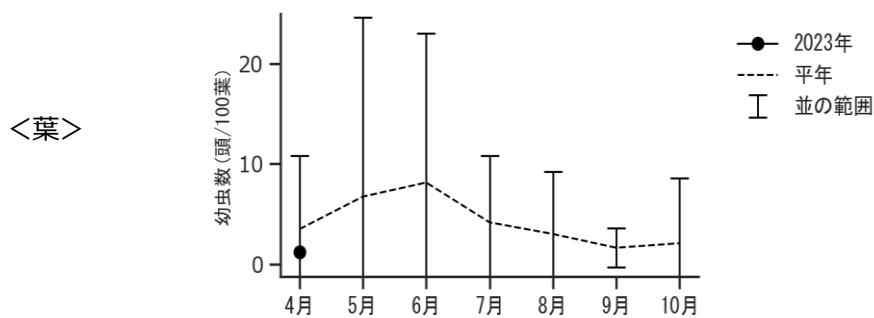
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ チョウ目幼虫		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

幼虫数の推移 (今期と平年)



・発生ほ場率60.0% (平年 : 45.1%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・老齢幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫による食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

